

会計と公共政策

スズキ トモ 教授

1. 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

Applications from overseas are very welcome (See the English page for Doctoral course).

わたくしの関心領域は極めて広く、独創的で社会的インパクトの大きなテーマを手掛けることに努めております。下に挙げるようなテーマを歓迎しますが、それ以外にもいろいろなテーマがありえます。大切なのは貴方が考え、信じるものを追求することで、わたくしは貴方をお手伝いするだけです。ただ、私的な「金もうけのための会計」や「投資家のための会計」にはあまり興味がありませんので、情熱がわいてきません。それよりは、会計と関連して、何か人間らしいことに挑戦したいと思います。テーマだけでなく、方法論にも縛られません。必ずしも数学ができる必要もありません。

日本ではIFRSの経済社会に対する影響や強制適用の可否を問うた『[オックスフォードレポート](#)』(トモ スズキ [金融庁 2012](#))の著者として知られていますが、国際的には他のテーマで知られており、いろいろなテーマを勉強することが可能です。2020年には『[成熟経済・社会の持続可能な発展のためのディスクロージャー・企業統治・市場に関する研究調査報告書<四半期毎の開示制度の批判的検討を契機とする>](#)』(315ページ; 暫定版)を上梓しています。

現在進行形で走っている大きなものは、(1)所謂「[One Additional Line 革命](#)」として話題になっているものです。2013年にインドで法制化された OAL は大企業の損益計算書に「CSR費用を追加的に1行表示」させるだけ(支出義務は無い)で、経営者、投資家、メディアのインセンティブが自律的に統制され、市場原理としてよりサステナブルな経済発展が達成される可能性を示しました(2014年より毎年USD 1-2 billion が創出され更に増加中。社会のインフラ改善に役立っています。)。行動経済学、制度設計、社会構築学的会計などを応用したポリシーイノベーションです。他の発展途上国に 응용が可能なだけでなく、他の分野の制度設計にも応用が可能な面白い分野です。もしかしたら、会計学の新しい潮流として定着するような大きなアイデアです。

ただ、(2)わたくしの中では、気持ちはもう次のテーマに移っていて、頭の中は悶々としています。発展途上国のサステナビリティに挑戦した後は、Post Growth Economy のそれです。日本のような「[幸福感を伴わない成長\(売上や利益\)](#)」が[続く成熟経済社会におけるサステナビリティ問題に対し会計や経済統計は何ができるかという問い](#)です。国際的に、未だ誰も挑戦していない、新しく、大切な問いです。「インドや他の途上国ではまだたくさんの方が苦しめるのに、ずいぶん贅沢な問題にシフトしたなあ」とのご意見もあるかもしれませんが、四半世紀後、中国やインドでも準需要飽和・準完全競争が達成されると、万国的な問題になると思っております。OALの時と同じように、制度設計や行動学、社会構築主義的会計や社会理論を援用して、まったく新しいアイデアをヒューリスティックに開発してゆく所存です。一緒に考えてみませんか?『[成熟経済・社会の持続可能な発展のためのディスクロージャー・企業統治・市場に関する研究調査報告書<四半期毎の開示制度の批判的検討を契機とする>](#)』を参考。

Suggested Themes:

Accounting and Political Economy; Experimental Economics and Accounting; Institutional Mechanism Design;

Behavioral Economics; Accounting for Agriculture, Arts Organizations, Government, Nuclear Power Plants, Women, etc…; Accounting for CSR, Development, Environment, Japan’s Matured Economy, Sustainability, etc…; Accounting for Brazil, China, India, Russia, etc.; History of Chinese Accounting, History of Japanese Accounting, After 5 years of the “Oxford Report” ; India’s One Additional Line, Applying OAL to South-East Asian Countries; Institutional Mechanism Design; Development of New Macroeconomic Accounting; Happiness Accounting; Keynes, Kuznets and Stone Archives; Accounting as Nudge of Institutional Mechanism Design; …or, anything will do! [或る望ましいシステムが措定されて、ここに単純な Account+ing を組み込んでやるだけで、このシステムがクルクル自律的に回るようになる、そのようなメカニズムの分析や開発に興味があります。例えば、お金がなくて困っているオーケストラとか、大学とか。]

2. 指導方針

オックスフォード大学から移籍してきて一年目で、日本の大学院の慣習を知りませんが、とにかく、貴方の興味ある事の追求のお手伝いをしたいと思います。あなたの可能性を伸ばすようお手伝いしたいと思います。極めて Open Minded でフレンドリーな「同僚」ですが、論理、データ集め、書くこと、には厳しい人と言われます。それから人間性に反するような行動や研究には厳しく反対いたします。学者志望の方、海外の大学で研究者となりたい方 (See the English version of this document for details)、国際的な NPO の仕事に就きたい方、政治家や官僚を目指す方、留学をお考えの方も、わたくしの経験とともに具体的な方法を提示して応援します。

3. 学生に対する要望・その他

リンクをご覧ください。必ずしも、自分がやりたいものが確定していなくても結構です。自分のやりたいもの探しから始めても結構です。申し込みのホームページ等の情報が不足していたり、明白でなかったり、ご自分の事情に合わなかったりする場合は、ご遠慮なさらずに、適切な問い合わせをして、是非とも貴方の高い志が挫けませんようお進みください。私共はみな、国内外(もちろん早稲田外からのApplicationを歓迎します)の多くの学生さんに大学院で学び、将来の夢を追求していただきたいと思っております。

大学ホームページ(アップデートされた情報): [ここをクリック](#)。

プロフィール: <https://www.linkedin.com/in/tomosuzuki/>

関心領域・論文例: <https://bimbie.academia.edu/TomoSuzuki>